

## Ⅱ 調査結果

### 2. 1 暮らしについて

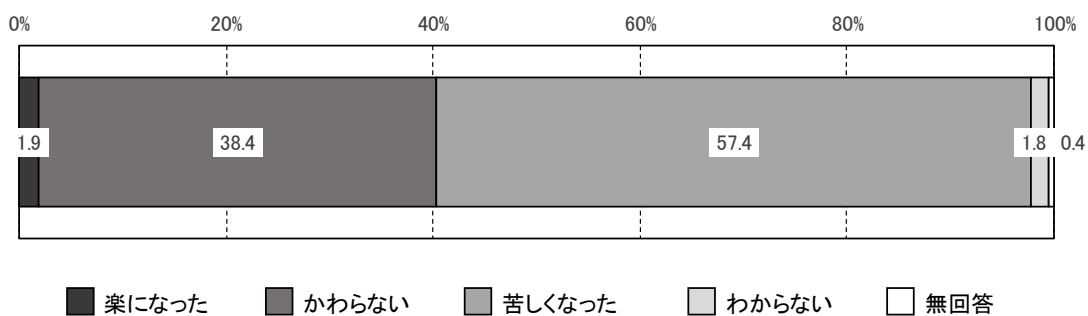
#### 問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き(家計など)は、去年の今頃と比べてどうですか。  
(1つだけ)

全体(図1-1)で見ると、「苦しくなった」が57.4%と最も高く、次いで「かわらない」(38.4%)、「楽になった」(1.9%)、「わからない」(1.8%)の順となっている。

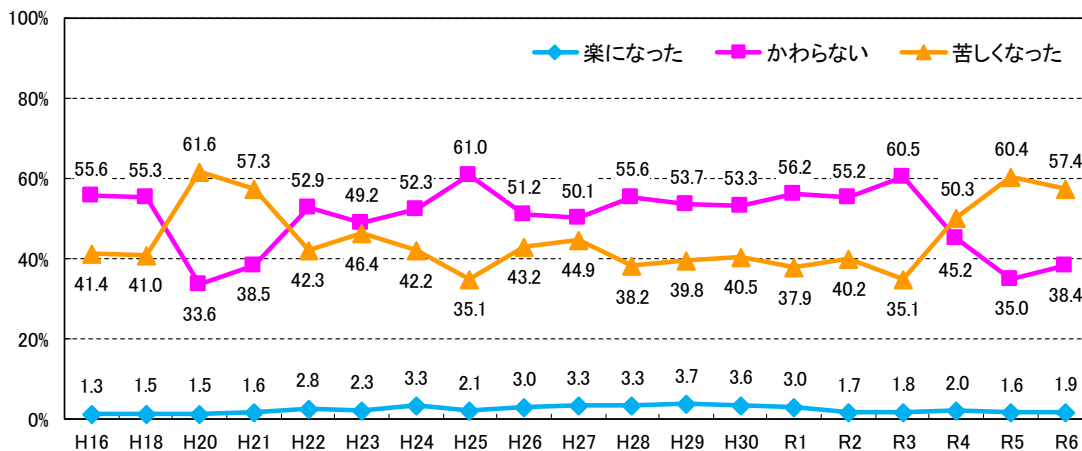
図1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n = 1,699)



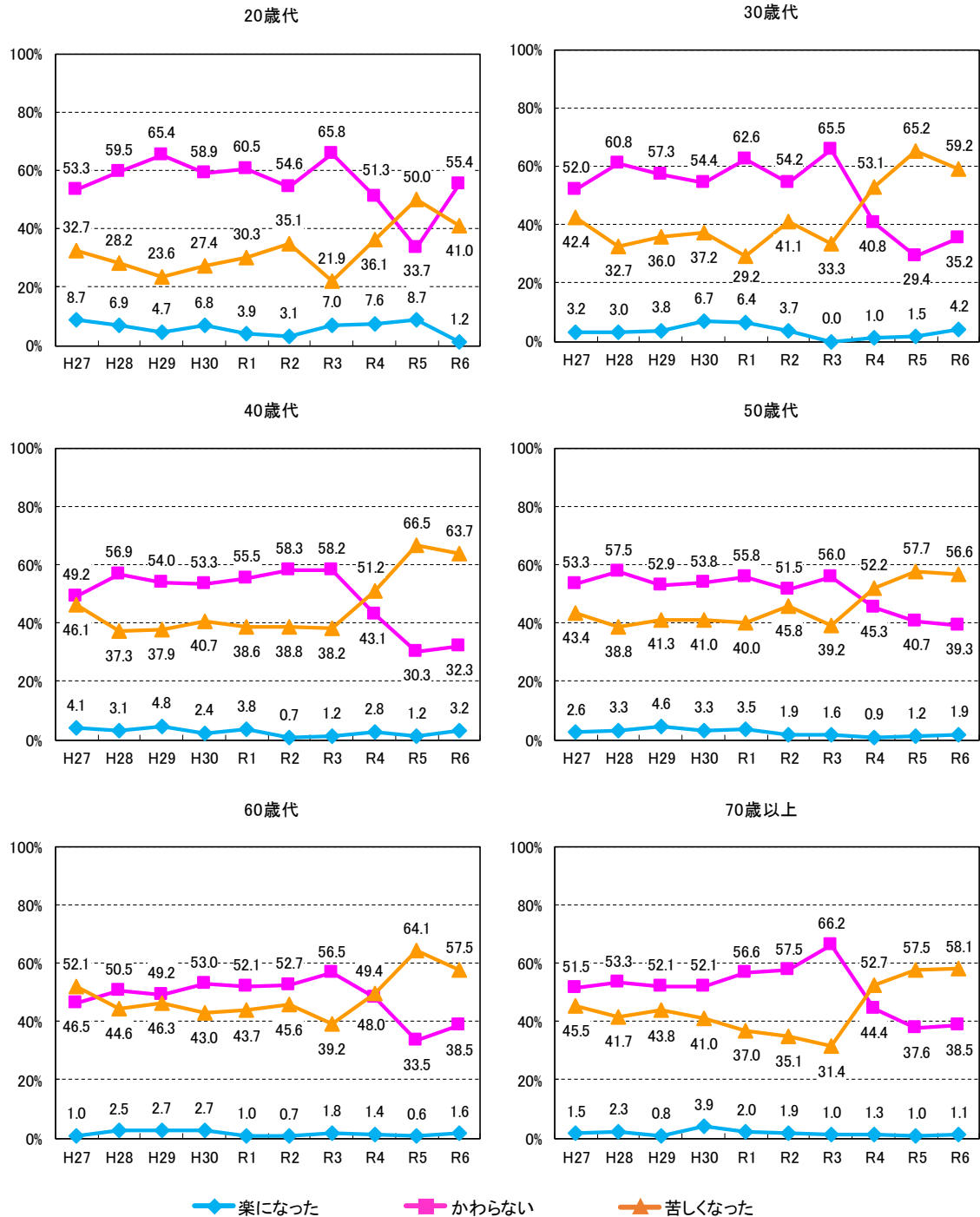
経年変化(図1-2)で見ると、平成22年から令和3年までは一貫して「かわらない」が最も高くなっていたが、令和4年から「苦しくなった」が「かわらない」を上回った。令和6年では、前年に比べて「苦しくなった」が3.0ポイント減少している。

図1-2【経年変化】暮らしの前年比較



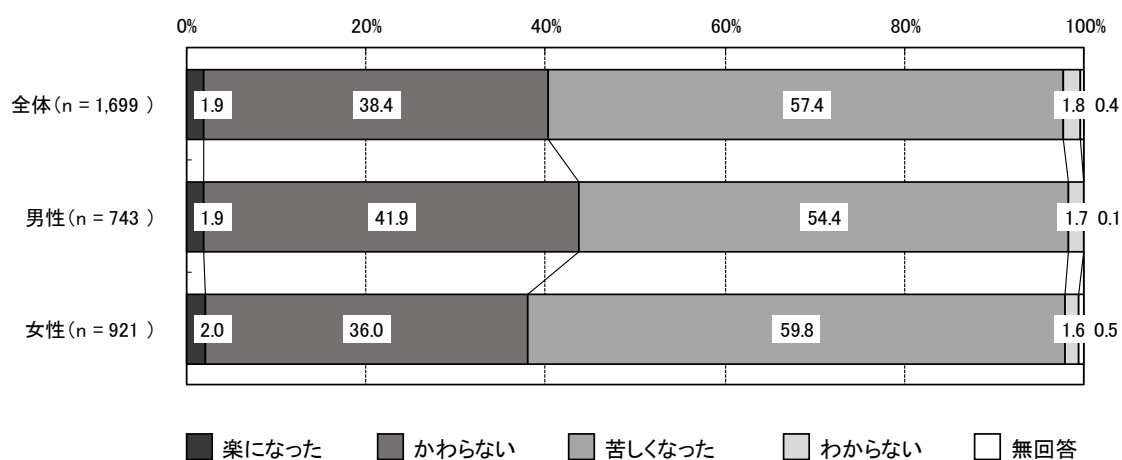
年代別の経年変化（図 1-3）で見ると、令和 4 年以降、20 歳代を除くいずれの年代においても「苦しくなった」が「かわらない」を上回っている。20 歳代では、前年に比べて「苦しくなった」が 9.0 ポイント減少し、「かわらない」と入れ替わった。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



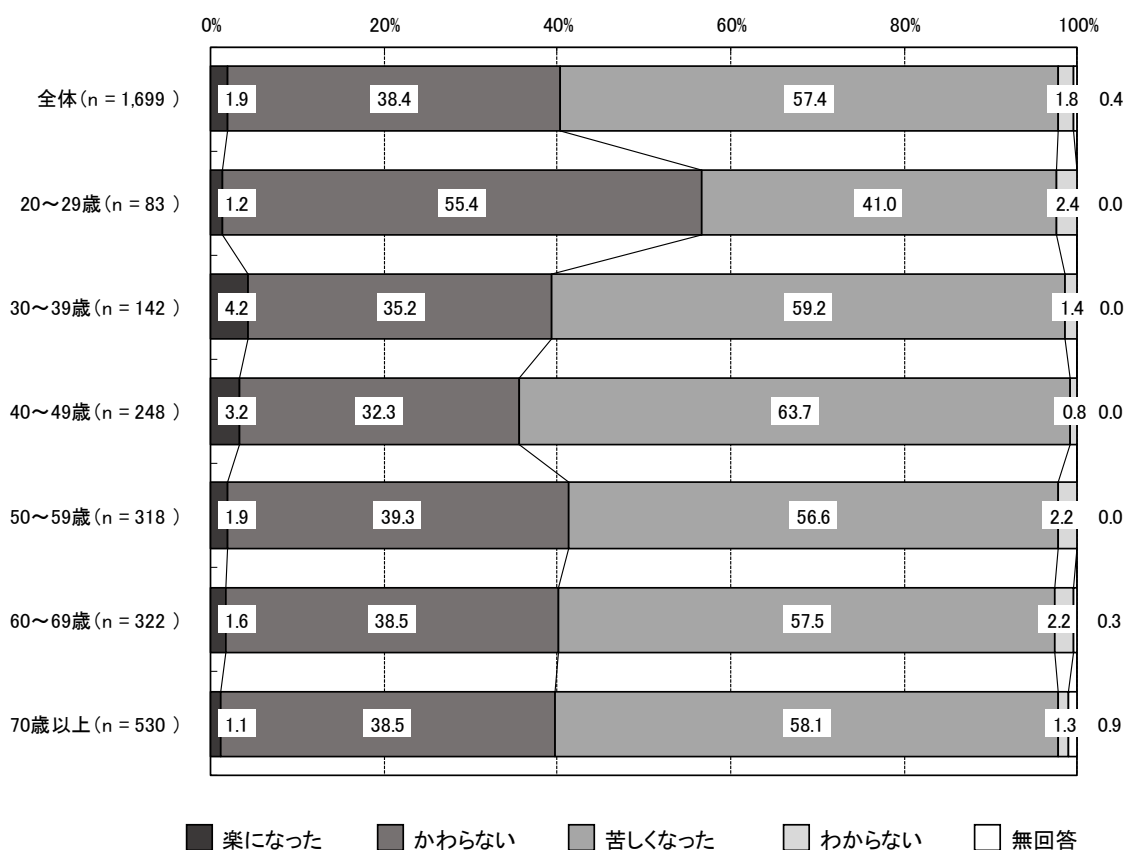
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「苦しくなった」が最も高く、男性が 54.4%、女性が 59.8%となっており、女性が男性より 5.4 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



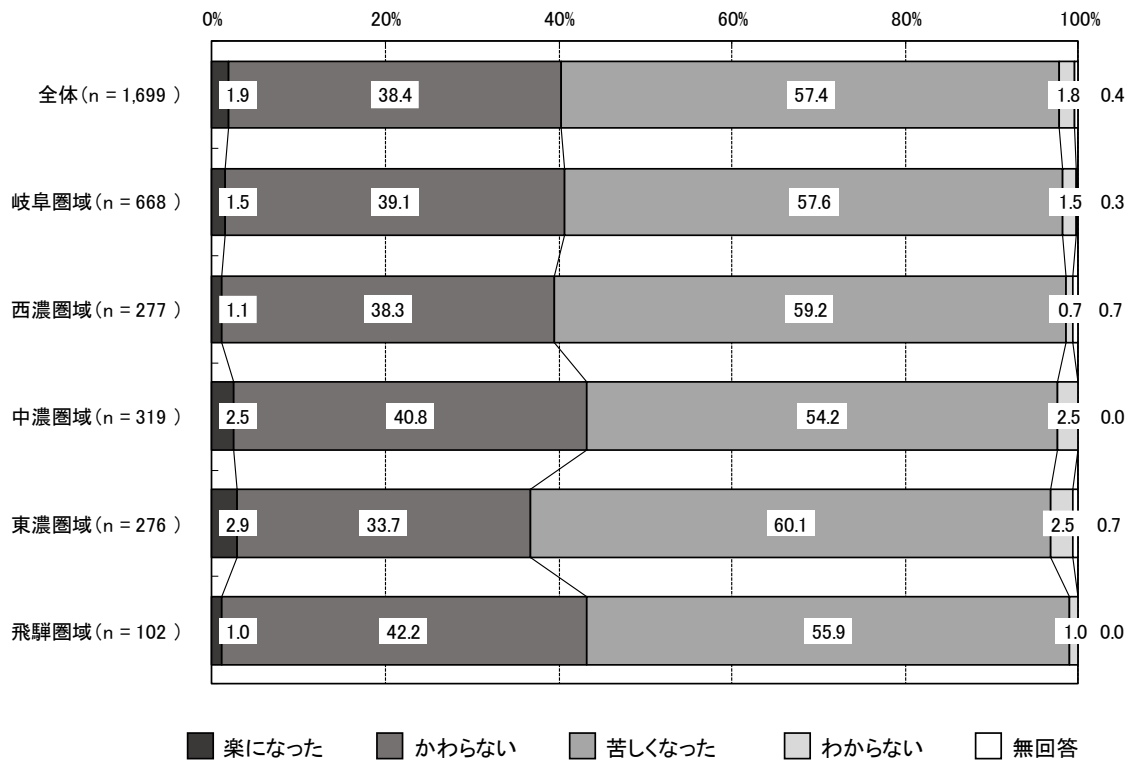
年代別（図 1-5）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち 40 歳代が 63.7%と最も高くなっている。一方、「かわらない」は、20 歳代が 55.4%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



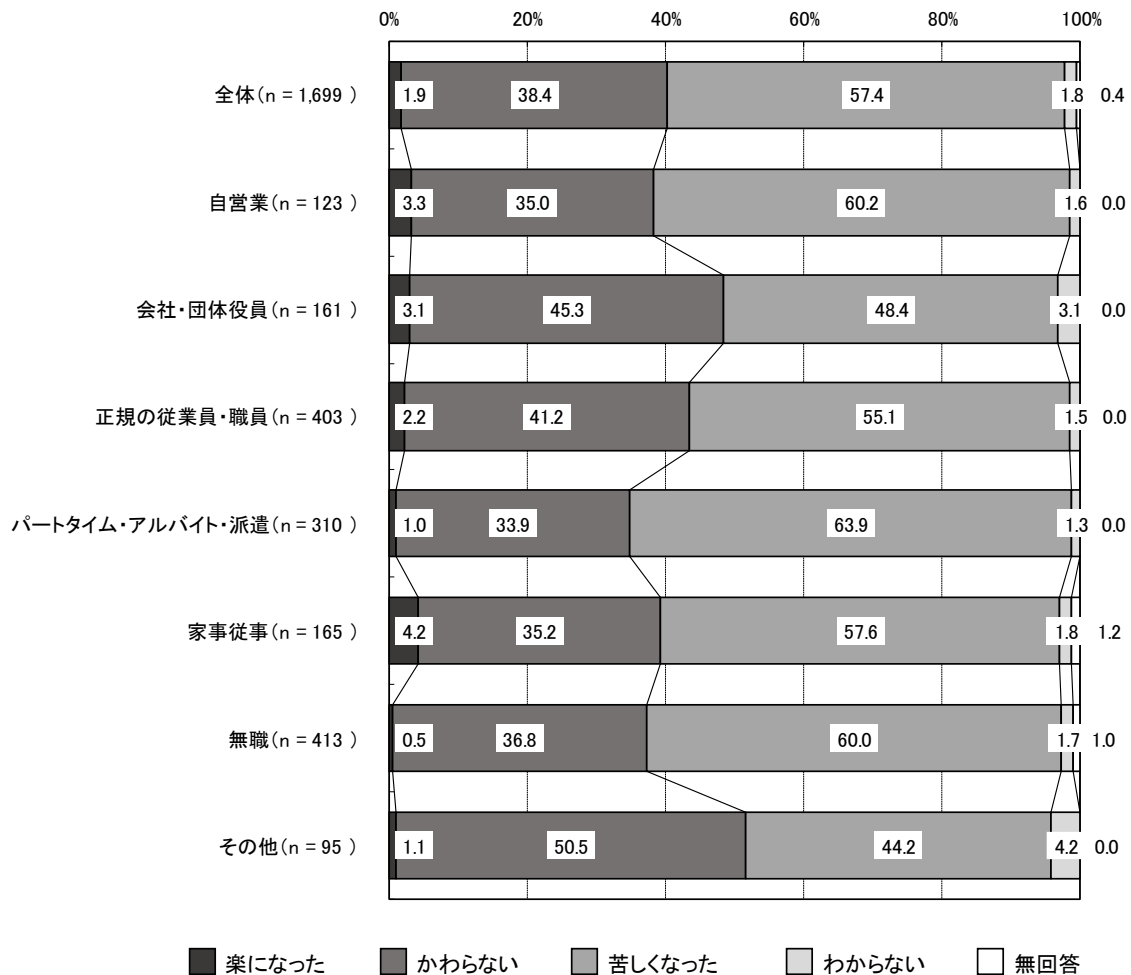
居住圏域別（図 1-6）で見ると、いずれの居住圏域においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち東濃圏域が 60.1%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、その他を除くいずれの職業においても「苦しくなった」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では 63.9%と最も高くなっている。その他では「かわらない」が最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】 暮らしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。